

歩けない 食べられない 楽しくない そんな人生に  
ならないために  
**手術と薬「リスクと副作用、こんなに」**  
**銀行が売る「この保険商品」買ってはいけない**

手術と薬のことなら  
週刊現代  
夏の特大号  
第3弾

# 週刊現代

独占! 無念の死 最後は寝たきりに  
**巨泉さん 家族の怒り「あの薬に殺された」**

8/6 特別定価450円  
Weekly Gendai  
2016 August

**医師の匿名座談会**  
患者にすすめても、  
自分の家族には絶対やらない「薬と手術」

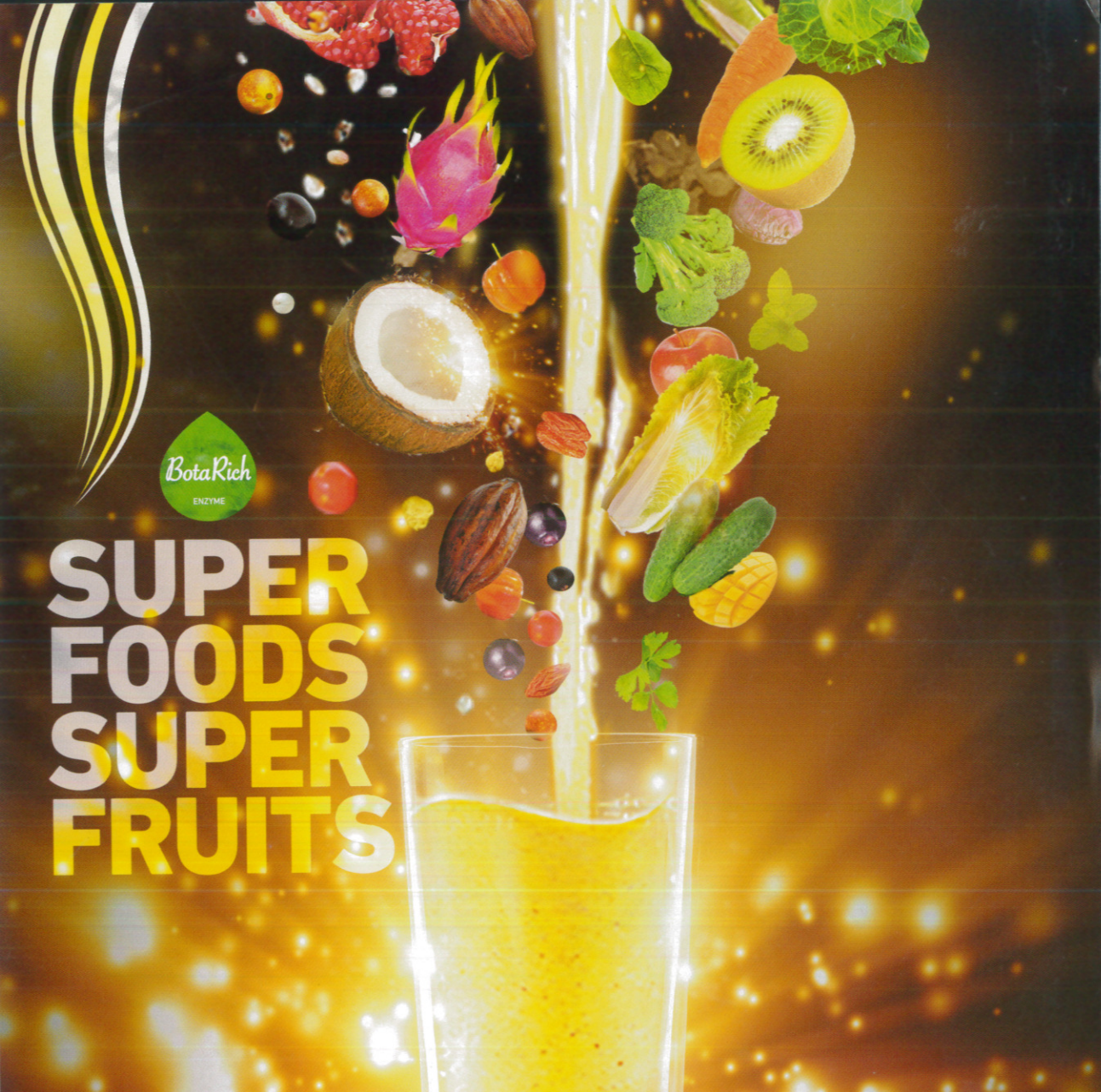
**「新・国民病」痛風の薬**  
もう生飲み続けなくていい  
**「バセドウ病」**ほか  
甲状腺の病気が  
妻がなったらこの薬と手術が危ない

**がん・糖尿病**ほか生活習慣病・痛風・リウマチ・バセドウ病ほか  
山崎拓がいまこそ明かす  
「小泉純一郎にあつて、加藤紘二になかったもの」  
特別レポート  
「プライベートバンカー」  
その知られざる正体

国民的大反響第8弾 / ぶちめき 32ページ  
関西で大人気のバラドル  
初ヘアヌードを公開 / 八神さおり  
元白テレジエニックのトップアイドル  
たかしよー 掲り下ろしヘアヌード

NHK朝ドラ「風のハルカ」ヒロインがついに  
村川絵梨「初裸身」をスクープ掲載  
真夏のアイドル  
河合奈保子の「美ボディ」を見よ  
上半期「お騒がせ事件」の主役たちはいま

週刊現代  
八月六日号  
第五十八巻 第二十七号  
平成二十八年八月六日発行  
(毎週一回来日発行) 平成二十八年七月二十五日発売  
発行人 鈴木章一 編集人 山中武史 発行所 株式会社 講談社  
東京都文京区音羽一丁目二十二番地  
編集部 ☎三三五九五三三二 定価 四五〇円  
販売部 ☎三三五九五四四八 ①次号発売まで  
郵便番号 一〇二一八〇〇  
販売店 全国各書店・コンビニエンスストア・スーパーマーケット等  
No.2857 32



ハワイで大人気、新ダイエットブランド BotaRichが日本上陸!!  
全国のドラッグストア・バラエティショップで絶賛発売中!

<p>スムージー</p> <p><b>SUPER FOODS ENZYME SERIES</b> 生酵素×スーパーフード</p> <p>生酵素×スーパーフード スムージータブレット 72粒 ¥1,400 (税抜)</p> <p>生酵素×スーパーフード スムージー 200g ¥1,980 (税抜)</p> <p>生酵素×スーパーフード 濃縮ドリンク 720mL ¥3,980 (税抜)</p> <p>濃縮ドリンク</p>	<p>スムージー</p> <p><b>SUPER FRUITS ENZYME SERIES</b> 生酵素×スーパーフルーツ</p> <p>生酵素×スーパーフルーツ スムージータブレット 72粒 ¥1,400 (税抜)</p> <p>生酵素×スーパーフルーツ スムージー 200g ¥1,980 (税抜)</p> <p>生酵素×スーパーフルーツ 濃縮ドリンク 720mL ¥3,980 (税抜)</p> <p>濃縮ドリンク</p>
--	---

お問い合わせ 販売者: ジェイビーエスラボ株式会社 URL: <http://botarich.jp> 商品に関するお問い合わせ: 03-6804-5399 (受付時間: 平日午前10時~午後5時まで)

# 巨泉さん家族の怒り 「あの医者、 あんなに殺された」 始まりはモルヒネの「誤投与」だった

## 急激に弱っていった

〈先生からは「死因は急性呼吸不全」ですが、その原因には、中咽頭がん以来の手術や放射線などの影響も含まれますが、

最後に受けたモルヒネ系の鎮痛剤の過剰投与による影響も大きい」と伺いました。もし、一つ愚痴をお許し頂ければ、最後

の在宅介護の痛み止めの誤投与が無ければと許せない気持ちです〉

これは7月12日(発表は20日)に亡くなった大橋巨泉さん(享年82)の妻・寿々子さんが、その

心情を綴った文章の一節である。さらにこう続く。

〈5月までは希望を持っていましたが、6月には体力の衰えが見えて、7月に入ると眠っている時

間が長くなりました。それでも娘や孫達の見舞いを受けるとニッコリと笑顔を見せていました。その頃には会話をする気力も無く、頷いたり、手を

強く握ったり、目元や口元の動きなどで意思を伝えてくれました〉

確かに3度にわたるがん手術と4回の放射線治療に加え、昨年の11月に発症した腸閉塞によるダメージは大きかった。だが、今年の4月に受けた在宅介護において医療機関のモルヒネ系鎮痛剤の誤投与により極端に体力が低下したことも、死期を早めた可能性が少なからずある。

もしあの時、モルヒネを大量に投与されていないければ、もっと生きられたのではないか――。

冒頭の寿々子さんの言葉からは、そう悔やむ気持ちがあふれ出てくる。

事の経緯を振り返る。巨泉さんが20年にわたり続けてきた、本誌コラム『今週の遺言』(6月27日掲載)の最終回にはこう書かれている。

〈3月27日に国立がん研究センター中央病院に緊急入院して検査をしたが、幸いがんは見つからなかった。(中略)CVポート(胸に埋め込む点滴補助器具)をすれば自宅での在宅介護で問題ないと言われ、がんセンタ

「この原稿をもらった当時、事務所の社長であり実弟の大橋哲也さんは、本誌に治療の内情をこう語っていた。

## 「この医者はやめよう」と決意

「がんセンターの先生からは『今のところがんはないので、まずは体力を回復させましょう』と言われていたのですが、この在宅介護の医者は『どこで死にたいですか? どうやって死にたいですか?』とばかり聞いてきました。がんセンターから兄のカルテが届いているはずなのに、読んでなかったのでしょうか……。

「がんセンターの先生からは『今のところがんはないので、まずは体力を回復させましょう』と言われていたのですが、この在宅介護の医者は『どこで死にたいですか? どうやって死にたいですか?』とばかり聞いてきました。がんセンターから兄のカルテが届いているはずなのに、読んでなかったのでしょうか……。

さらにはこの医者は、『まあ、もって2、3ヵ月でしよう。私は専門医だから分かるんです』と言う。兄も私たち家族も、相当なショックを受けたのは言うまでもありません。

次の日から、巨泉さんはこの医者に言われた通りに処方されたモルヒネ薬を飲み始めた。するとこんな症状が出始めたという。

「薬を飲むまでは普通に歩いていたら、トイレも自分で行けていたのですが、飲み始めて2日目になると、フラフラして一人で歩けなくなりました。寿々子さんから電話がかかって来て、一人で抱えられないと言うから、飛んで行ったんです。

3日目になると二人がかりじゃないと支えられないほどになり、兄も『なんか変なんだよ。空を飛んでいるみたいだ』と訴えていました(哲也さん) 終末医療に詳しい、帯津三敬病院の帯津良一名誉院長が解説する。

「医療麻薬として知られるモルヒネ系薬は、痛みをとる代わりに、副作用として意識障害や、呼吸抑制により心臓に負担がかかることがある。特に高齢者で体力が衰えている方は慎重に使う必要があります。服用量を間違えると死期を早めてしまう危険性もある」



5月にカナダ行きのチケットを用意していたが、薬により急激に体力が衰えたため、その夢は叶わなかった

1を4月5日に退院したのである。しかしこの在宅介護が大ピンチの始まりになるうとは神のみぞ知るであった。退院した5日の午後、我が家を訪ねて

医者と病院に負けるな  
薬をやめてよかった、  
手術を断ってよかった

は、がんセンターで「今のところがんの転移はない」と言われていたのに、モルヒネを投与されてから、日に日に弱っていく巨泉さんを見て不安を募らせていた。

「毎日自宅には来るのですが何もしない。こんなにフラフラになって意識が混濁しているの、普通の医者なら『おかしい』と思うはずなのですが……。付き添いの看護師が脈を測ったりはしていましたが、この医師が問診することは、ほとんどありませんでした。それ

でいて「早いなあ、(寿命が)1〜2週間になっちゃったかなあ」と言うのです(哲也さん)

「最初は2〜3カ月と言っていたのに、急に『今日がヤマです』と突然告げられた。

「死んでいたいと思います。処方する前から量がおかしいとは思わなかったか? 素人では分かりませんよ。自宅には使わなかった30日分以上の薬が残っています」

だったことが判明したという。それが現在は緩和ケアの病院で院長を務めていたのである。

「翌11日の朝、若山先生が同乗してくれた弟の車で家を出たのだが、突然ボクの意識は飛んだ。そのとき若山先生の確かな指示を出してくれて、途中の病院に緊急入院の形で担ぎ込まれたという。

「モルヒネ系の痛み止めの薬は体内に蓄積される事で知られるが、がんセンターではボクの体力に合わせて使っていたようだ。普通の病院なら、が

んセンターからの資料を読めば理解できた筈なのだが、何故だか大量に渡されたのである。何しろ九死に一生を得たのだが、82歳の老人には大打撃であった。結局、緊急入院になったために、ノ1チヨイスで救命処置を受ける事になってしまったのである」

「医者からは『申し訳なかった。てっきり(巨泉さんは)緩和ケアをするものだと勘違いしていた』と電話があった。

「兄と私たち家族が望んでいたのは、最後に好きなことをして逝くことでした。でも結果として、兄は、最期に美味しい物を食べることも、ワインを飲むことも、ゴルフを



05年胃がんの手術を受けた時の写真。妻の寿々子さんは最期まで献身的な介護を続けた

### 好きなことをしたかったのに

# 60すぎたら、医者にすすめられても拒否しなさい

糖尿病のジャヌビアやアマリールでうつ病に  
たきりの危機 コレステロールのクレストールの後遺症 前立腺肥大の手術で勃起不全 白内障手術で失明 膝の人工関節で車椅子にほか

# 手術と薬「リスクと副作用、

## 「こんなになんか」前編

一度やったら、もう普通の生活に戻れない!!  
歩けない 食べられない 楽しくない

### 降圧剤を飲んで脳梗塞に

「2年ほど前に血圧が高いので、降圧剤のミカルデイスを処方されるようになりまし。しかし、飲み始めて2ヵ月あまり

記事を読んで、あの時、脳梗塞になったことの一因に血圧を下げ過ぎたことがあったのではないかと、思うようになりました。

と相談して降圧剤を飲むのをやめ、バイアスピリンなど血液をサラサラにする薬だけを飲んでいました。毎日飲む薬が減って、心なしか、前より健康になつた気がします(大

山明人さん/72歳・仮名) いま本誌編集部にはこのような読者からの便りが続々と届いている。長年飲み続けていた薬をやめたら、めまいやふらつきがなくなった。喉が渴